

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692700053		
法人名	社会福祉法人成功苑		
事業所名	グループホーム舞夢(みなと1丁目)		
所在地	京都府舞鶴市宇桑飼上小字深田1088番地の1		
自己評価作成日	平成25年1月11日	評価結果市町村受理日	平成25年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活とは何かを考え続け、その方に合った生活をして頂けるように、全職員で援助して頂けるように努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2692700053-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は地域との交流に力を注いでおり、事業所を理解してもらうため広報誌を年3回地域に向けて配布したり、運営推進会議等で地域の情報を収集し地蔵盆や小学校の運動会に参加しています。また、認知症サポーター講座の開催や夏祭りや敬老会、餅つきなど事業所のイベントにも地域の方の多くの協力を得て行ったり、窓ふきや草刈りなどボランティアの来訪もあり地域との良好な関係が築かれています。利用者の重度化に伴い、一人ひとりの状態に応じたケアが出来るよう、其々の担当を決め思いを把握すると共にユニット会議等で話し合い、介護計画に繋げ個別支援に向けて取り組んでいます。研修計画に基づいた職員研修を行い、研究発表などで職員の発言場面の機会を設ける等人材育成にも力を入れている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とともに」、そして舞鶴市民にとって「あってよかった施設」と思われる取り組みへのチャレンジ。ご利用者が「主役」の人生の舞台をここで、という目標をステーションに掲示して共有し実践につなげている。	法人の理念を基に事業所のスローガンを作成し事務所に掲示しています。朝礼や会議時に唱和をし職員間で共有すると共に理念が実践に繋がっているかを会議等で話し合い振り返る機会としています。スローガンは1年毎に見直しを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり施設での行事にも参加して頂き、地域への散歩もして日常的な交流をしている。	町内会に加入し運営推進会議や地域の役員等から行事の情報を得て、地蔵盆や運動会などの行事に参加したり、夏祭りや敬老会、餅つき等、事業所のイベントにも多くの地域の方の参加を得ています。窓拭きや草刈りなどのボランティアの来訪もあります。事業所を理解してもらうため広報誌を年3回、地域に回覧しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を地域の学校等で開催して理解や支援の方法を地域に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た地域のイベント情報やボランティアの協力等について頂いた意見をサービスに活かしている。	会議は市職員や民生委員、地域の代表者の参加を得て2ヶ月に1度併設の施設と合同で開催しています。事業所の状況や事故報告の後、意見交換が行われ有意義な会議となっています。参加者からボランティアの提案があり受け入れ方法について職員間で検討しサービスの向上に反映させています。検討課題については次回の会議で結果報告をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険者証の更新・区分変更時の連絡に留まっている。	市の職員は運営推進会議のメンバーであり、事業所の状況を把握してもらっています。介護相談員を受け入れたり、法人のケアマネジャーが行政の窓口と関係を密に取り連携が図れるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束ゼロの実践に取り組んでいる。	研修を年2回全職員対象に行い拘束についての理解を深めています。管理者は職員会議やリーダー会議の中で事例を基に話をし、拘束のないケアに努めています。玄関は施錠せず外に出たい様子の時は一緒に出かけ自由に過ごしてもらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での内部研修を中心に行ない、防止に努めている。		

グループホーム舞夢(みなと1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の内部研修にて行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接や入所時に説明を行い、不明な点は随時質問があればして頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話で聴き取ったり、市の訪問調査員の受け入れや、家族交流会を行い運営に反映できるように努力している。	家族の意見や要望は面会時や電話、家族交流会時に聞いたり、意見箱も設置しています。出てきた要望は個々に対する内容の物が多く職員間で話し合い要望に応じてサービスの向上に反映させるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議にて意見を聴く機会を設けている。又施設長に直接自分の意見を書いて渡す機会も設けておられる。	朝礼やユニット会議では一人ずつ意見を言う機会を作り、全職員の声を聞くようにしています。職員から気分を変え外での食事が楽しめるようにとホットプレート購入の提案を受け検討の結果、購入に至るなどサービスの向上に反映させています。年2回と随時のヒアリングは職員が相談や希望を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で左記項目の向上を図れるように努力されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として、人材育成に力を入れておられ、個々に合わせて研修に参加する等でスキルアップができるように進めておられる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や研修への参加を通して質の向上に取り組んでいる。		

グループホーム舞夢(みなと1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接段階から、ご本人の要望にできるだけ沿えるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接段階から、ご本人の要望にできるだけ沿えるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時又は入所判定の時点で、どのサービスが必要か見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般、炊事、洗濯、掃除等を通して職員と一緒に協力して頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や、散髪、外出に対して協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られることを中心に、地域からボランティアに来られて話が弾んだり、自宅に帰るなど出来る範囲で行なっている。	知人や友人の来訪時には椅子を運び、ゆっくりと居心地良く過ごせる雰囲気をつくり再来訪してもらえるよう配慮しています。馴染みの店への買物や、自宅に荷物を取りに帰る等の支援や手紙や年賀状をポストに投函する等の支援を行っています。墓参り等、利用者の思いを家族に伝え、家族と共に出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ孤立しないように、ご利用者同士の関わりができるよう、職員が間に入って仲を取り持つように努力している。		

グループホーム舞夢(みなと1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、在宅復帰への情報提供を1件行ったのみ。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプラン作成のプロセスや、ご利用者への対応を通じて意向の把握に努めている。	契約時に利用者や家族の意向、暮らし方の希望等について聞き取りアセスメントシートに記入し職員間で共有しています。日々の会話や表情、仕草から利用者の意向の把握に努め、記入に残すと共にケース会議や担当者会議で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接記録や普段の会話、ご家族の話などから生活歴等を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやケアプラン作成のプロセスや、ご利用者への対応を通じて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員に、担当者を持ってアセスメントからサービス計画案の作成、サービス担当者会議への参加をしてもらい、チームで作成できるように努めている。	利用者や家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成しています。日々、計画に沿ったモニタリングを全職員で行い3ヶ月毎に職員の意見を聞き計画作成担当者がモニタリングと見直しを行っています。見直し前には再アセスメントを行い、家族や看護師、管理栄養士等関係する多くの参加者を得てサービス担当者会議を開催しています。往診時の医療情報を反映させ計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンのケース記録に入力し、引き継ぎや連絡ノート、ユニット会議で情報共有して、介護計画の見直しにつなげるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今のところ、グループホームの枠を超えては行なっていない。併設の各事業にて行っている。		

グループホーム舞夢(みなと1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	餅つき等の行事に地域の方々の協力を得ているが、個別には地域資源の活用は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医師の希望を聞きいて納得のいく適切な医療を受けられるようにしている。	入居時に今までのかかりつけ医を継続出来る事を説明し現在は殆どの利用者が協力病院に変更しています。2週間毎に協力医の往診があり看護師を通じて家族に情報を伝えています。専門医の受診は家族が同行し、必要に応じて職員が同行し書面や口頭で情報交換をしています。協力病院は24時間連絡可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度、専属の看護師や施設全体の医務室と連携して、個々のご利用者が適切な看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された時は、早期に退院できるように、面会に行きながら病院と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの方針を作り、それに基づいて嘱託医・ご家族・職員で話し合い希望を聞きながらその方に合った終末期ケアを行えるようにしている。	入居時に看取指針を基に家族や利用者へ説明をし、状態が変化した時は家族と医師、看護師でカンファレンスを開催し、方向性について話し合い同意書をもらっています。今までに医師や家族の協力を得ながら看取りの経験もあります。胃漏や吸引の研修や実習等、看とりの勉強会もその都度おこなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の訓練は、定期的には出来ていないが、随時できるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害時には、地域の緊急避難所となっており、実際に避難されていた事もある為、舞鶴市、地域との協力体制は出来ている。	火災訓練は年2回昼夜想定で行っていますが、消防署の参加はありません。避難誘導、通報、初期消火の訓練をしたり連絡網の確認や非常食を皆で食べています。施設が地域協定書に基づいて地域の救急避難場所になっており、水害時、冠水の為避難をされた経緯もあります。	消防署指導の下での火災訓練を実施され、事業所での取り組み等に対してアドバイスを受けられてはいかがでしょうか。

グループホーム舞夢(みなと1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体として、個々の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をするように指示され、実践している。	併設施設と合同で研修を行っています。日々、大声を出さないように敬語で対応し名前は苗字で呼ぶなどプライバシーを損ねないよう心がけています。気になる言動が見られた場合はその場で注意をしたり、状況に応じて個別に指導をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、希望や自己決定をできるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご利用者のペースに合わせて生活して頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お元気な方は自分で選んで服を着ておられ、出来るだけ自分の好きな身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事には、嫌いなおかずは代用品を提供し、寿司が好きと言われる方が多く誕生会等の特別な時に外食を取って食べて頂くなどしている。	献立は利用者の好みを聞き1カ月単位で立て管理栄養士に見てもらっています。誕生日にはその人の食べたい物を聞き出来る限り要望に沿うようにしています。食材は配達してもらっていますが足りないものは利用者と一緒に買いに行ったり、野菜切りや盛り付け、配膳、茶碗拭きなど出来ることに携わってもらっています。畑で収穫したものが食卓に上がったり、時には出前を取ったり外食に出かけること等も楽しみの一つとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と相談して、献立を組み栄養バランス等には気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のご利用者に合わせて口腔ケアをしている。		

グループホーム舞夢(みなと1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を取り、出来るだけトイレでの排泄が継続できるように努力している。	排泄チェック表により一人ひとりのパターンを把握し個別に声かけや誘導を行っています。個々に応じた支援をすることによりトイレでの排泄に成功したり紙パンツから布の下着に移行し皮膚状態の改善が見られるなど自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因等の理解はしており、薬や運動、水分補給などの工夫はしているが、まだ他にも工夫できる余地がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に希望は無い為、職員で決めているが、あくまで基本的な決めごとで、その都度希望があれば対応する。	入浴準備は毎日出来ており週3回を目途に入ってもらい、希望があれば毎日の入浴も可能です。風呂場の大きな窓から庭の景色が眺められ、利用者は開放的な気分になりゆっくりと楽しむことが出来ています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度に、休みたい時は休めるようしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容をファイルしたものを作り、用法等を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各担当者にアセスメントをしてもらい、左記の支援ができるように進めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒い時期は殆ど出られていないが、気候の良い時期には、散歩や外出に出たり、ご家族や地域の方とも交流している。	気候の良い時期は事業所の周辺や河川敷へ散歩に出かけています。桜やあじさい、藤、コスモス、紅葉等、季節毎の外出も行き、家族にも声をかけています。また家族と共に外食や買い物、ドライブに出かける方もあります。	

グループホーム舞夢(みなと1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ちたい方は持っておられるが、年々機能低下してきておられ、少なくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を引かれている方も居られ、自分でかけたい時にかけておられる。手紙は届いた時に手渡している。こちらから手紙を出す支援は出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間接照明が多く使用しており、花を飾るなどの工夫もされている。	玄関やリビングには季節の花や利用者手作りの季節毎の作品、手編みの敷物や椅子カバー等が置かれ、暖かい雰囲気作りが成されています。加湿器の設置や換気を行い利用者が快適に過ごせるよう配慮しています。畳のコーナーや随所にソファなどが置かれ思い思いの場所で心地よく過ごせるよう工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂が共用空間となっており、過ごされている気の合った方同士になれるように工夫している。フロアの空間づくりに検討の余地がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に出来るだけ、使い慣れたものを置いて過ごせるように努力している。	居室はトイレ、洗面台、カーテン等が備え付けられ、馴染みのベッドや寝具、筆筒、仏壇、縫いぐるみ等、安心出来る品を持ち込んでもらったり、家族の写真を貼るなど居心地よく過ごせるように配慮しています。生活習慣や好みに応じて布団を敷いて寝る方もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで段差をできるだけなくした作りとなっており、自分で出来るだけ動いて頂けるように工夫されている。		